

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	箕面船場・ダイヤレント株式会社ビル	階数	地上4F
建設地	大阪府箕面市船場西一丁目	構造	S造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	10人
地域区分	6地域	年間使用時間	1,944時間/年(想定値)
建物用途	事務所、工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2021年3月 予定	評価の実施日	2020年1月30日
敷地面積	1,180㎡	作成者	光野 秀治
建築面積	1,027㎡	確認日	2020年1月31日
延床面積	3,252㎡	確認者	嶋村 邦彦



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.3

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100% (46 kg-CO₂/年・m²)

②建築物の取組み 79%

③上記+②以外の 79%

④上記+ 79%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです。

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 2.9

Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.7

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 2.9

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 3.2

LR のスコア = 3.5

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.1

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.0

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.2

3 設計上の配慮事項		
総合	建物用途は倉庫・作業場であるが、外皮性能を高め地球環境負荷低減に取り組んでいます。又、箕面の自然、瀬・もみじ・山等をデザインコンセプトに取り入れる事で周辺環境にも配慮しています。	その他 特になし。
Q1 室内環境	電動カーテン・電気ロールスクリーン・Low-Eガラスを採用して、熱負荷低減に配慮した。	Q3 室外環境(敷地内) 屋上建物道路側に室外機を配置し騒音・振動に配慮、目隠しルーバー等で景観にも配慮した。
LR1 エネルギー	Low-Eガラス、LED照明等の高効率設備を採用し省エネルギーに配慮した。	LR3 敷地外環境 LCCO ₂ 排出量削減に配慮している。
Q2 サービス性能	ゆとりのある空間構成としフレキシビリティ性の向上に配慮した。	
LR2 資源・マテリアル	節水機器やリサイクル材、再利用可能ユニット部材を採用し省資源に配慮した。	

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

大阪府建築物環境配慮評価システム2018年版 大阪府の重点評価(結果)

受付番号

H31-0156

Osakafu-新築・既存 2018V1.0

【建物概要】		建物名称	箕面船場・ダイヤトレンド株式会社ビル					
		建設地	大阪府箕面市船場西一丁目					
		用途/区分	事務所 工場					
【評価結果】		CASBEE 総合評価	★★★★☆				B+	
①	CO2削減	★★★★☆				4		
②	みどり・ヒート アイランド対策	★★★★☆				3		
③	建物の断熱性	★★★★★				5		
④	エネルギー削減	★★★★☆				4		
⑤	自然エネルギー直接利用					—		
		再生可能エネルギー 利用施設の導入状況	太陽光発電	—	風力	—	地熱	—
			太陽熱利用	—	水力	—	バイオマス	—
エネルギー消費量の報告						報告しない		
【評価項目】								
項目		評価内容				スコア	評価	
① CO2削減		CASBEE「LR3-1」のスコアによる評価				3.8	4	
② みどり・ヒートアイランド対策								
生物環境の保全と創出		CASBEE「Q3-1」のスコアによる評価				3.0	3	
敷地内温熱環境の向上		CASBEE「Q3-3. 2」のスコアによる評価				3.0		
温熱環境悪化の改善		CASBEE「LR3-2. 2」のスコアによる評価				3.0		
③ 建物外皮の熱負荷抑制		CASBEE「LR1-1」のスコアによる評価				5.0	5	
④ 設備システムの高効率化		CASBEE「LR1-3」のスコアによる評価				4.4	4	
⑤ 自然エネルギー利用		CASBEE「LR1-2」のスコアによる評価				3.0	—	
エネルギー消費の実態把握に努める		エネルギー消費量の実績を3年間報告する。				報告する 報告しない	報告しない	
その他								
		技術の名称			考慮事項			
先進的技術の導入								
特に配慮した事項								